

背景

- 病院小児科の数が減少しているため、居住地から遠く離れた医療機関に小児の救急患者が搬送される比率が高まり、通報から医療機関収容までの時間が延長している可能性がある。

方法

- 平成20～24年の全国の救急搬送人員データベース(総務省消防庁)を用いて,
 - 新生児(28日未満, 約1.2万人/年),
 - 乳幼児(28日～7歳未満, 約22万人/年)
 - 少年(7歳～18歳未満, 男女とも, 約18万人/年)の地域外搬送率および収容所要時間を時間帯・重症度別に解析した.
- **地域外搬送率**: $\text{消防本部の管轄地域外搬送} / (\text{管轄地域内搬送} + \text{管轄地域外搬送}) \times 100(\%)$
- **収容所要時間**: 119番通報～医療機関収容

結果 (1)

- 新生児(28日未満), 乳幼児(28日から7歳未満)および少年(7歳以上18歳未満)の各時間帯における地域外搬送率は, 4年間で大きな変化を示さなかった.

新生児，乳幼児，少年の 地域外搬送率

	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	総数
平成20年	41.5%	25.5%	20.1%	19.4%	18.5%	19.3%
平成21年	38.5%	25.4%	21.2%	19.1%	18.4%	19.2%
平成22年	40.1%	26.5%	21.5%	20.0%	19.0%	19.9%
平成23年	40.9%	26.3%	21.6%	19.8%	18.8%	19.7%
平成24年	38.6%	26.3%	21.7%	19.7%	18.7%	19.6%

・地域外搬送率 = 管轄地域外搬送 / (管轄地域内搬送 + 管轄地域外搬送)

・年齢区分：

新生児(生後 28日未満)，

乳幼児(生後 28 日から 7 歳未満)，

少年(7 歳から 18 歳未満，男女とも)，

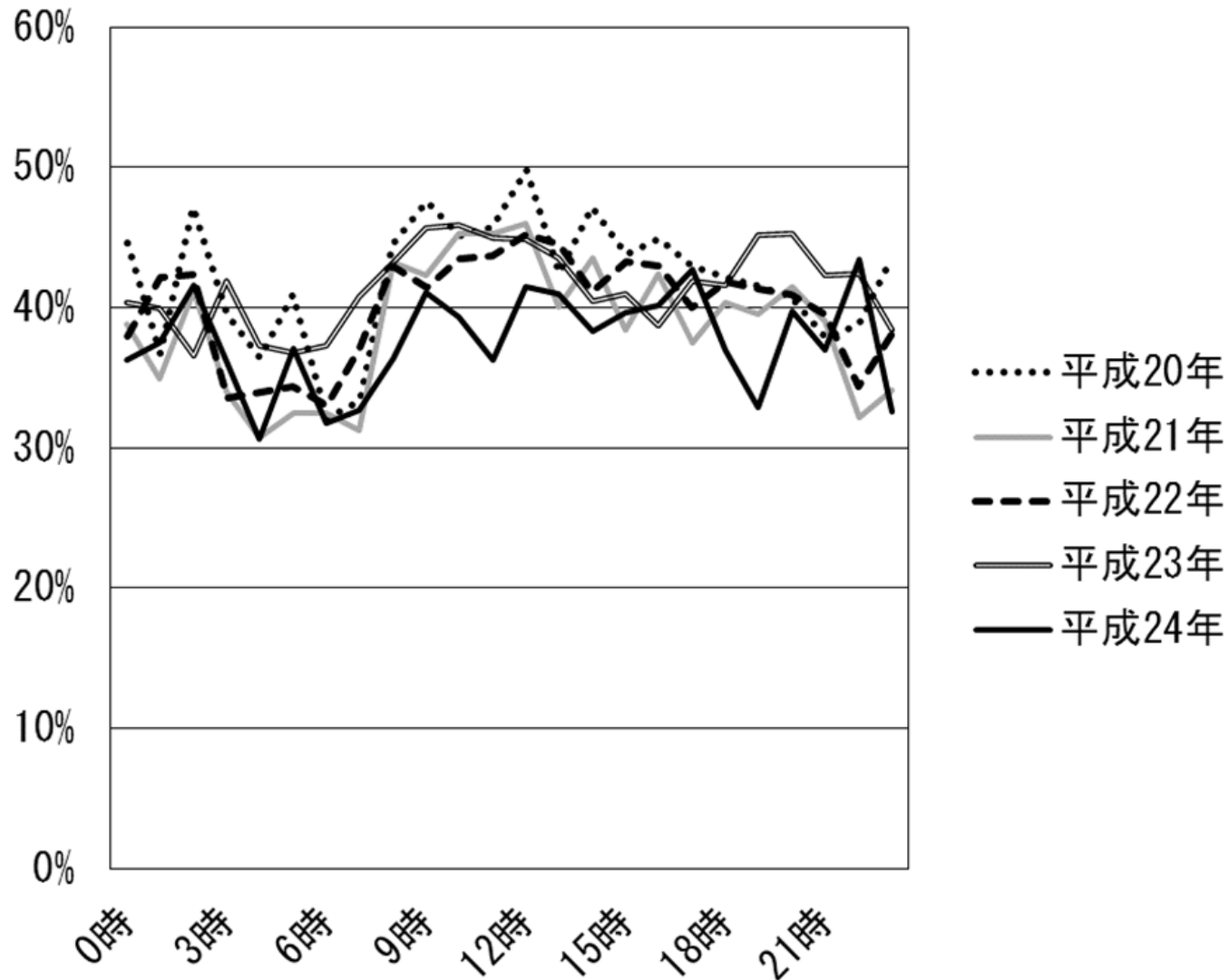
成人(18 歳から 65 歳未満)，

高齢者(65 歳以上)

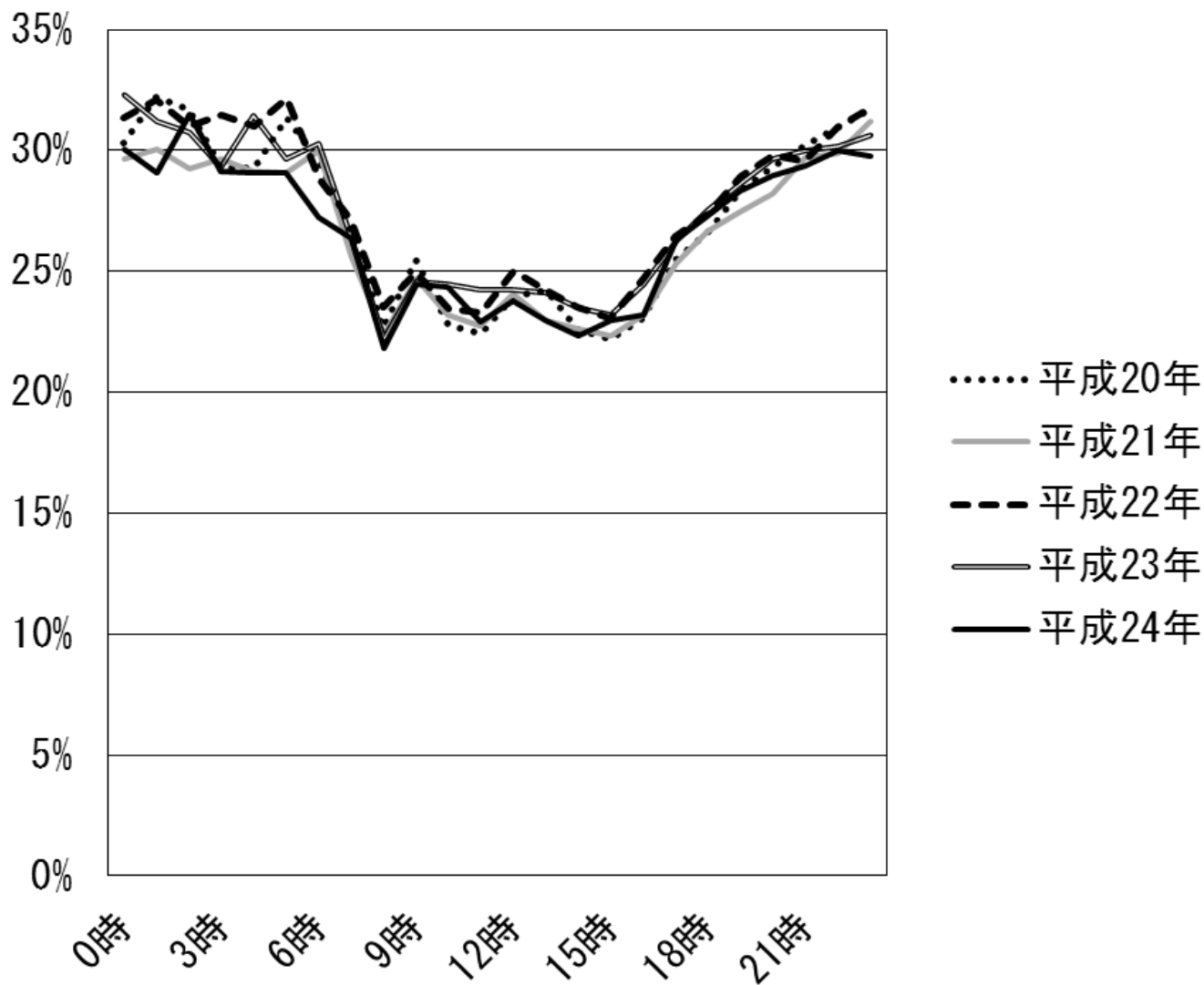
結 果 (2)

- しかし、時間帯別に新生児では大きな差異がないものの、乳幼児および少年では日勤帯に低く、準夜・深夜帯で高い傾向が見られた。
- また、収容所要時間が60分を超える比率は、新生児や乳幼児では朝方、少年では深夜帯に高い傾向が見られた。

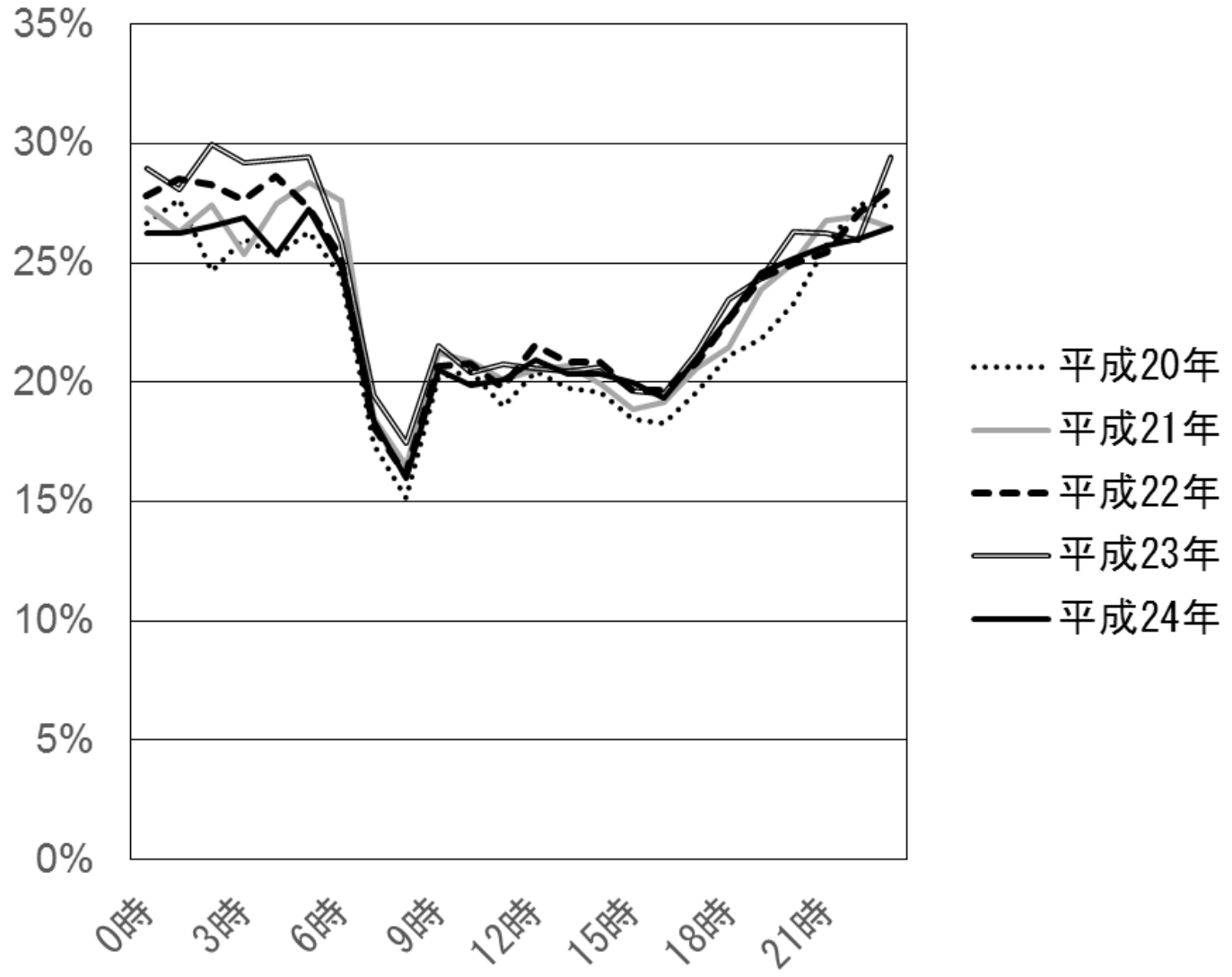
新生児の時間帯別地域外搬送率



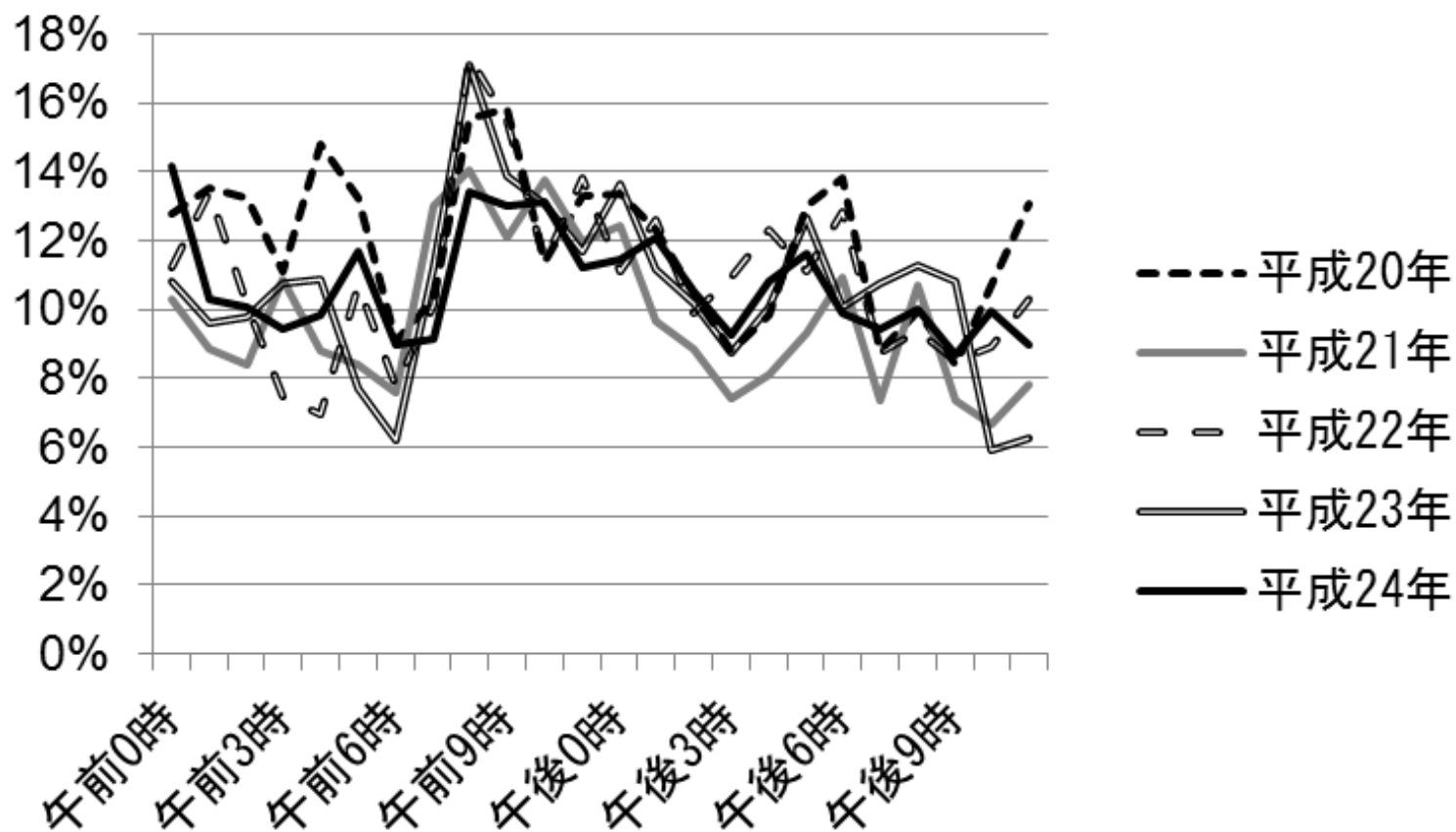
乳幼児の時間帯別地域外搬送率



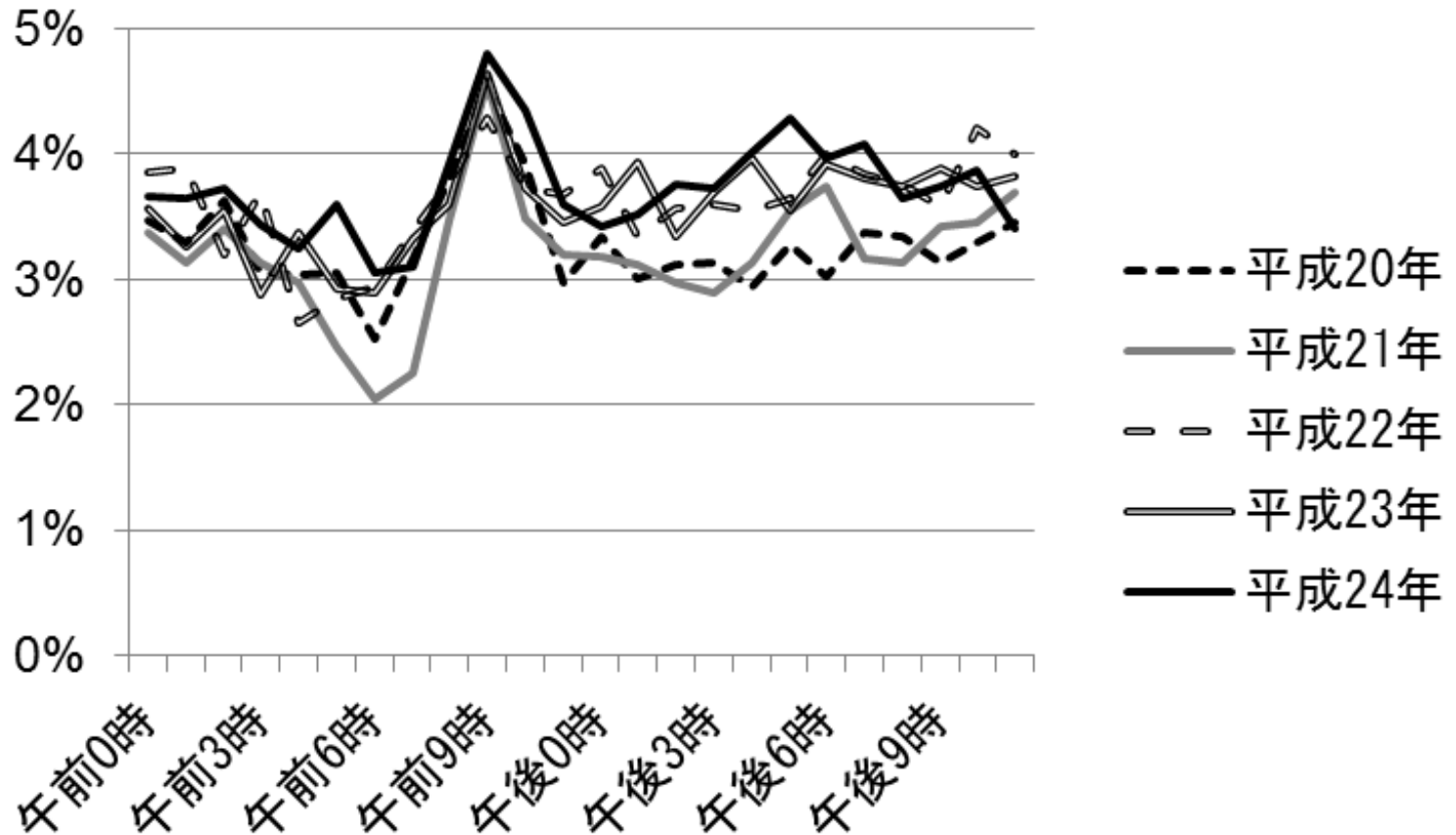
少年の時間帯別地域外搬送率



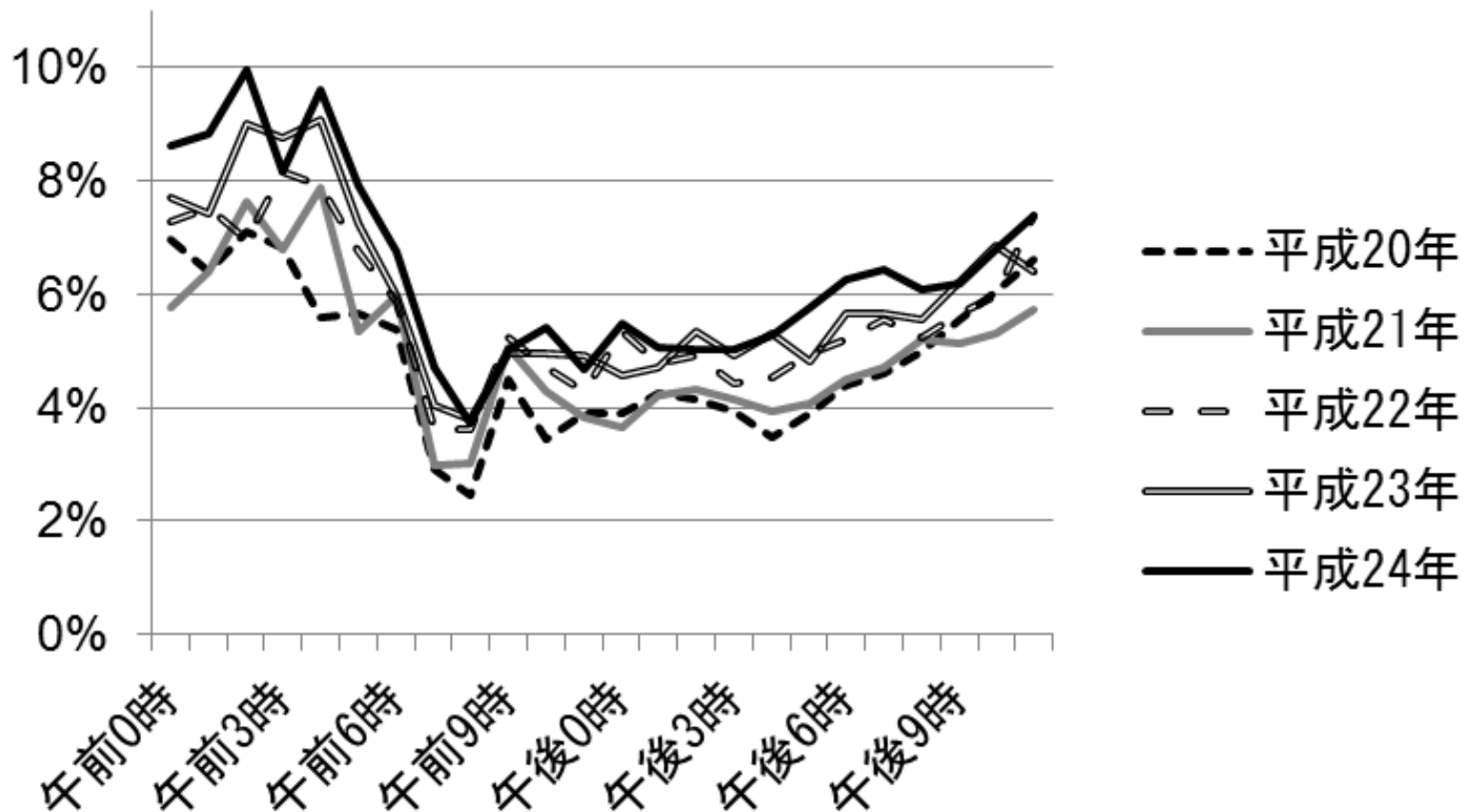
収容所要時間が60分を超える比率 (新生児)



収容所要時間が60分を超える比率 (乳幼児)



収容所要時間が60分を超える比率 (少年)



結 論

- 平成20年から24年の4年間に於いて、小児救急患者の地域外搬送率には大きな変化を生じなかった。
- 収容所要時間が60分を超える比率は、新生児や乳幼児では朝方、少年では深夜帯に高い傾向が見られた。